

『売店へ行って共同宣言組合へ入札』と

あせりにかされた当局が不当労働行為



87. 2. 3
No. 2468

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二五三六・（公衆）〇四七二二二七二〇七

為・動労革マル一体となった 組織破壊攻撃を粉碎せよ！



一月二八日国鉄当局は、「意思確認書の回収状況について」マスコミ発表した。交付数二万九千三百四十人、回収二万七千六百六十人、承継法人希望者総数が二万九千三百四十人とされている。承継法人の必要人員が二万五千人と法律化されていることに対して希望者が二万九千三百四十人ということは、全国で五千余人しか清算法人に送り込めないということであり、北海道、九州に「余剰人員」が集中していることと合わせ、「本州部分では欠員」と報道されている。

拡大・深化する中曽根・杉浦・松崎の矛盾

この間当局は、新会社に二万五千、清算事業団に四万一千という計画を前面に押し出し、国鉄労働者を差別・分断し、国鉄労働運動を解体せんとする攻撃を展開してきた。その闘う国鉄労働運動解体攻撃の集大成として、敵は「六二・四・一」をもって産報化された「一企業一組合」を狙っていたのだ。当局と革マル松崎が必死になつて三本柱（出向、一時帰休、希望退職）を強行しすさまじい首切り攻撃が吹き荒れ、希望退職も含めて五万人もの労働者がすでに職場からたたき出された。しかし、その反面、中曽根・杉浦・松崎の攻撃は、選別の過程で解決不能の諸矛盾に突き当たり、とりわけ、最大の目標であった闘う労働運動解体攻撃を基本的に粉碎してきたということ、われわれにとって大きな勝利であり、根本的なところで分割・民営化の狙いを粉碎してきたといえる。

今回の「意思確認書」の結果は、このことを鮮明に示すものであり、国鉄労働者の、この間の非人間的な攻撃に対する怒りの爆発を予兆させるものである。

「もつと首を切れ」と
要求する動労革マル

であるが故に、この結果に一番恐怖している動労革マルは鉄労をはじめとする改革労協グループの名で一月二三日、国鉄当局に対し、「敵対している者まで新事業体に移行せざるを得ない状況」だから「二万五千人の要員枠そのものは是非を含めて、正直者が馬鹿（ママ）を見ない対処を」と要求し、そのうるたえぶりを世間にさらした。国鉄八法を通すために「努力」した彼らが、その八法を無視し「二万五千人を割りこめ」と叫ぶとはまさに笑止千万であるが、「国鉄労働者のク

ビをもつと切れ」と当局に要求する動労革マルを笑って見逃すことはできない。

明確な不当労働行為強行

また、昨年末から今年にかけて千葉鉄当局は、検査や運転係の昇職試験や、EC転換教育を利用した露骨な不当労働行為をもつて動労千葉、国労破壊に手をそめてきている。試験で合格点を取った労働者を「総合的判断」と称して恣意的に落したり、面接において「共同宣言を結んでいる組合に入らないか」「売店にいかないか」などと検査や運転係の試験とは全く関係ないことを強要し、不安を煽る形で動労革マルと連動した脱退攻撃に躍起となっているのだ。

われわれは、運転部長、車務課長等が動労革マルと結託して強行するこの全く非人間的攻撃を断固はね返すために、あらゆる戦術を駆使して闘うことを宣言する。

首切り攻撃に対する怒りを
爆発させよう！

この動労革マルと斉藤、村上等反動当局が一体となつた攻撃に屈服し、動労革マルの手先・土屋粹等の甘言にのつて「なの花」等に逃げ込み動労千葉や国労を脱退するなどということは、「二万五千人を削り込んでクビを切れ」という動労革マルと同じ立場で、自らのクビをしめる裏切り行為である。

国鉄労働者のクビ切りを許さない闘いの勝利は、この二月、三月の差別・選別過程で、全組合員の闘い、中曽根・杉浦・松崎に対する怒り、分割・民営化に対する怒りをどれだけ爆発させるかにかかっている。不当労働行為をくり返す運転部長、車務課長を徹底糾弾し、職場で、学園で、当局とともに追いつめ、解体しよう。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！